

大阪医科大学学報

第22号 平成6年11月



大学全景

◆目

法人（本館・図書館竣工、本学給与）……………	2
学納金改訂、学則改正……………	6
人事〔採用、退職、昇格・異動 〔委嘱・解嘱、海外渡航、叙勲〕〕……………	12~14
教室紹介……………	15
教授候補者の公募……………	17
学位記授与……………	18

次◆

平成7年度入学試験要項……………	20
文部省補助金の内定……………	21
海外出張記……………	23
医学の散歩道……………	25
会議・行事予定……………	26
附属病院（診療動態ほか）……………	27
学内行事（体育関係、学園祭ほか）……………	29

本館・図書館の竣工について

前学報（第21号）でお知らせしたとおり、本館・図書館は平成6年5月30日に竣工し、図書館の内部諸設備の整備が夏休み期間中に完了しました。

図書館の開館（9月5日）に先立ち、同館の竣工式が9月1日（木）午前10時30分から2階ロビーにおいて理事長、学長、学内関係者および工事関係者の出席のもとに執り行われました。

引続いて、本館・図書館の完工を祝って、本学前学長早石修先生からご寄贈頂いたブロンズ像「希求する」の除幕式が制作者山崎正義先生（京都教育大学名誉教授）にもご出席をいただき執り行われました。

当日の正午からは、近畿地区の私立医科大学の理事長、学長を始め70名余のご来賓をお迎えして同館の縦覧および披露パーティーが管理棟会議室で行われました。

当日の竣工式に当たって理事長より次の挨拶がありました。

本館・図書館竣工披露の挨拶

理事長 宮 崎 重

本日は、皆様には大変お忙しい中を、本学の本館・図書館の竣工式にご参列頂きまして、誠に有り難うございました。

図書館の整備、充実を計らなければならないということは、随分前から言われていたところでありまして、私の知っている限りでも、昭和50年頃、既に耳にしていたように思います。しかし、当時の状況からしまして、何はともあれ先ず診療部門を整備・充実しなければならないということで、昭和43年には病院の外来、昭和49年からは病棟の増改築工事として5号館を、次いで昭和52年には中央診療棟、そして昭和56年に病棟の6号館が完成して、診療関係の整備は一応終わりました。

ついで、研究の有機的な連携を計る必要から、分散しておりました基礎並びに臨床教室の研究室を一ヶ所に集め、平成2年に総合研究棟が完成しました。



その間、図書館建設の案はいつも組上に上がっておりましたが、その度に優先順位が先送りされて今日に至った次第でありまして、これでやっと一息ついたというのが今の偽らざる心境であります。

大学にとりまして本館は業務の心臓、図書館は頭脳で研究の中心部をなすものでありますが、この建物は既存の総合研究棟、講義実習棟、附属病院の三者を廊下で結ぶよう配慮されており、教育・研究・診療の接点として今後大いにその機能を発揮し、十分活用されて、私立医科大学としての使命を立派に果たせまうよう期待し、また決意を新たにするものであります。



今日ここに、先ほどご覧頂きましたように、地味な性格の本学としましてはやや派手な（ロビーなどにある程度余裕のある空間を持った）立派な図書館が出来上がりましたが、その建築に当たりましては、計画・立案の段階から完成に至るまで、終始熱心なご努力を賜りました武内建築委員長、藤本図書館長はじめ建築委員の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

また、先にも述べましたように、ここに長年の懸案でありました本館・図書館の完成をみる事が出来たのは、既に故人となられました廣瀬元理事長、堀井前理事長はじめ数多くの先輩諸氏の残してくれた努力の賜物であり、また本日ここにおられます皆様方の日頃の暖かいご支援があったからでありまして、深く感謝の意を表します。

なお、竣工の記念と致しまして、早石前学長からブロンズ像、本学医師会から大時計、日建設計から絵画、銭高組・青木建設共同企業体から石の彫刻などをご寄贈賜りました。この席をかりまして改めて厚く御礼申し上げます。

本日は、皆様お忙しいところを、まことに有り難うございました。

“機能美”あふれる

新図書館



▲ オープンな出入ゲート。
カードによってチェックされる

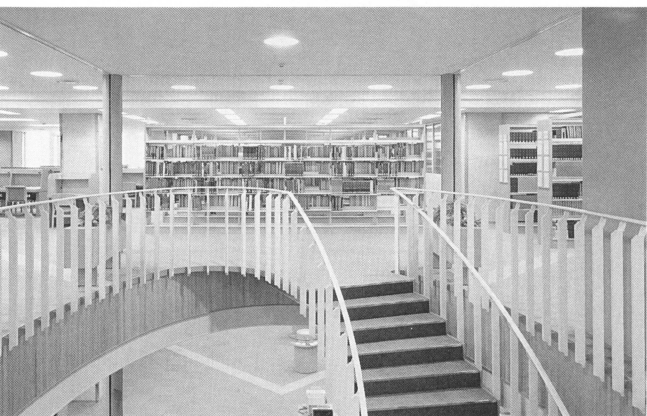


▲ 図書館正面のプレート

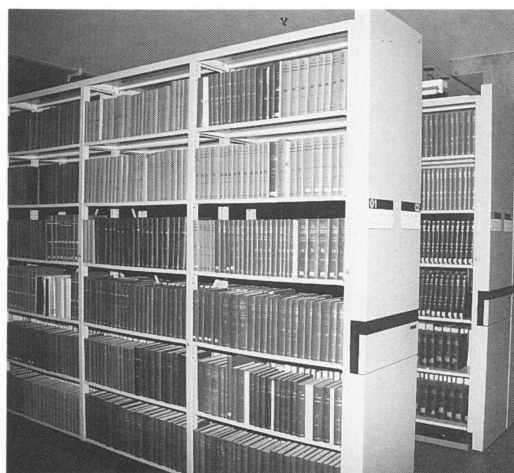
▶ 二階入口前に建ったブロンズ像「希求する」



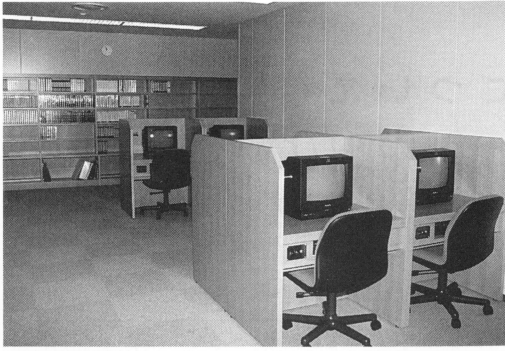
豊富な蔵書、多彩な新旧データを、
医学情報の収集度が医学図書館の価値
を決める。同時に情報化時代の現在には、
それら文献・情報の検索と利用を
スピーディに、かつ的確に行えるよう
な機能が求められる。
20年後の蔵書数17万冊を目標とし、
先端的なコンピュータ・システムを随
所に採用した新図書館である。現在研
究室にしながら図書館文献情報を検索
できるシステムを開発計画中である。
なお、館内は明るく解放感があり、
整合性のある書架の配置も好感を呼ぶ。
知と美の魅力を“近代美”と表現して
おこう。



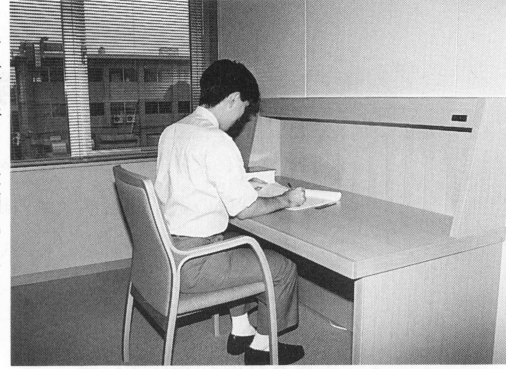
▲ 二、三階を結ぶしなやかなデザインの階段



▲ 専門書の宝庫、地下の電動集密書架



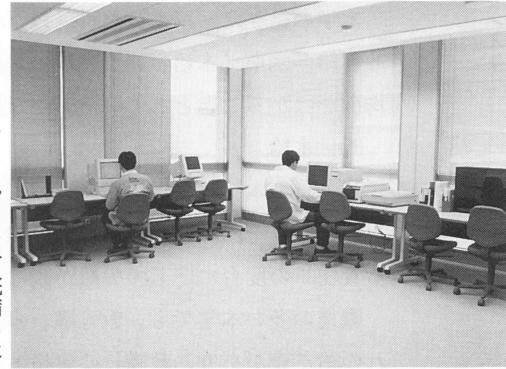
◀ 医学以外のビデオテープも
見られるAV室



▶ 落ち着いた雰囲気の研究個室



▶ 看護専門学校の図書コーナー



▶ パソコン、ワープロなど完備した
ニューメディア情報室

落ちついた思索の場の四階

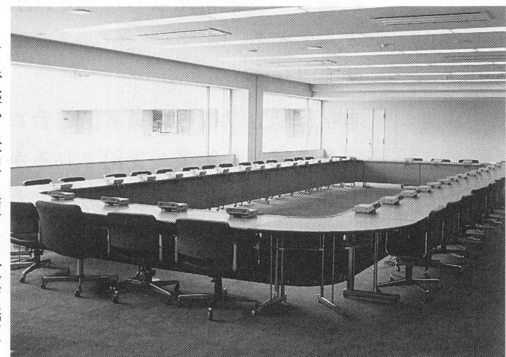


▲ 現在、足立文太郎初代校長の「日本人の脈管系」三部作、「シールト図譜」、杉田玄白・中川淳庵著「解體約書」ほか貴重な医学古書を展示している。

四階には、大会議室と少人数の学生学習室にかこまれた中央のスペースに、トップライトを浴びた展示コーナーが設けられた。



▶ 広い空間のある談話コーナー



▶ 音響、映像も使える大会議室

本学の給与について

大学運営上、人件費の取扱いは極めて重要な問題である。安定的かつ継続的な人件費財源の確保とともに、教職員の適正な給与水準の維持と時勢に対応した給与制度の改善が肝要である。ついては、本学はどのような給与方針をとっているのか。また、国家公務員あるいは他の私立医科大学とくらべてどの程度の給与水準であるか等について以下に述べ、教職員各位のご理解をお願いする。

1. 本学の給与制度について

本学の給与は、国家公務員（以下公務員という）の制度を参考にした給与制度・給与体系を基準とし、給与水準（本給、諸手当等の水準）については、現在他の私立医科大学（旧13校）の平均額との均衡をはかることとしている。主な給与の制度および内容は次のとおりである。

(1) 本給

公務員の本給は、本俸表によって定められている。本俸表は職務の種類（職種）により別々に定められ、それぞれ職務の複雑さ（知識、経験の程度）と責任（業務責任と人（命令をうける人）に対する責任）の度合に応じて等級が設けられている。

職種の多い本学でも、教育職、事務職、技能職、医療技術職、看護職および労務職に別けたそれぞれの給与表があり、教職員の資格・職階により各職種の給与表および等級が適用される。

例えば、教育職については教授は5級、助教授は4級、講師は3級、助手2級の等級とし、各自の経験年数にもとづく号俸の本給額が適用される。

(2) 諸手当

手当の種類は、家族手当、役職手当、職務手当（職務内容により各種あり、一律額でない）、通勤手当、住宅手当、看護婦準深夜勤手当、年末年始特別出勤手当、夏季・年末手当、および労働基準法に定める時間外勤務手当、深夜業手当、深夜時間外勤務手当、宿日直手当等がある。

手当額は、おおむね公務員給に準じているが、他の私立医科大学の手当額との均衡も考慮している。夏季・年末手当も公務員の期末・勤勉手当を参考にするほか、一律加給額の支給がある。

(3) 退職金、退職年金

・退職金

退職金は勤続2年以上の教職員が退職した場合に支給される。支給率は給与規則に定められ、在職4年までは在職1年につき退職時本給の1ヵ月分の支給率、5年以上在職者は支給月数が割増になる。

教職員が在職中死亡したときは別に弔慰金の支給がある。（教職員を被保険者とした団体定期保険に加入している。）

・退職年金

本学は私立学校教職員共済組合に加入しているので、共済年金の受給資格者は同組合から公務員共済年金に準じた年金が支給されるが、それとは別個に本学負担による退職年金制度がある。在職20年以上の教職員が60才以上で退職した場合、退職時から10年間本学退職年金が支給される。支給額は、在職期間に対応して算出されるが、月額44,000円が支給上限額となっている。受給資格者が60才未満で退職して給付を希望するときは減額退職年金が支給される。

2. 給与制度の運用について

(1) 給与改訂

私立大学では、8月に行われる人事院の公務員給与勧告後、これを基準にして給与改訂を行う大学が多いが、本学は4月に給与改訂（ベースアップ、定期昇給）を行い、一部の手当は人事院勧告後、勧告額を基準に4月にさかのぼって改訂を実施している。毎年のベースアップ率は他の私立医科大学の率、一般の賃上げ状況等を参考にして決定されるが、本学の収入に対する人件費の割合が健全な範囲にとどまるように留意している。

(2) 定期昇給、昇格

定期昇給は1年1号俸の昇給を4月に行う。一般企業では高齢者の昇給を抑制し、公務員も58才から昇給は行われない（医療職（一）、行政職（二）は60才）。本学の教職員の定年は職員65才、教員68才で公務員より高齢であるが、現在は高齢による昇給停止は行っていない。

しかし、今後は諸般の状況上一定年齢以上の者の昇給は抑制する必要があると思われる。

等級の昇格は、教員は職位により、職員は本学で定める昇格基準内規にもとづき職務相当等級へ昇格を行う。職位、役職には定数があるので、選考のうえ昇格を行う。

3. 本学給与と公務員給与の比較

公務員給与は、民間給与の動向に準拠したものであり、国から補助金を受けている私立大学の多くは公務員給与制度を妥当なものとして之にならっている。本学も公務員給与を基準にしているが、本給・諸手当の金額は、本学の給与方針による金額であり、公務員給与額と差異のある部分もある。

・本給額については、公務員給は人事院の民間給与調査結果をもとにした勧告額によるが、本学は私立医大平均額を基準にしている。

・公務員給では、大学附属病院の一部職種の業務を細分化し、特定の業務従事者に俸給の調整額の加算がある。本学は、附属病院の同一部門内で、業務別に加算の有無のあることは、均衡上問題があるので、この制度は採用していない。また、厳密な勤務評定にもとづく特別昇給でなく、輪番的な年功的制度になりかねない公務員の特別昇給制度は参考としないで、教職員全般の給与改善を心掛けている。

・諸手当のうち、自動車・自転車使用者の通勤手当、持家者の住宅手当、看護婦準深夜勤手当、年末年始出勤手当、私傷病欠勤時の給与の取扱い等は公務員給よりよい支給額となっている。

・夏季・年末手当については、公務員が人事院勧告により支給率を引下げられた年度でも、本学は現行支給率を維持し、一律加給額も併給される。しかし、公務員の支給率はわが国一般の支給水準を反映したものであり、国の補助金を受ける本学としても現行支給率の維持は検討をする必要がある。

・公務員の退職金は自己都合退職と定年退職とで支給率が異っている。本学は両者とも同一の支給率であるが、全般的に本学の支給率の方が高くなっている。例えば、本学教職員の平均在職年数である在職8年の者の本学の退職金は本給の8.56ヵ月分であるが、公務員は自己都合退職者が6ヵ月分、定年者が8ヵ月分となっている。20年以上勤続の定年退職者の支給率は公務員の方が若干高くなっているが、本学の20年以上勤続の退職者には、退職金のほかに前述の本学退職年金が支給されるので、公務員支給率を上回る支給となる。

4. 今後の給与制度について

本学は教職員の適正妥当な給与水準の維持をはかるため、予算編成においても、人件費優先を旨と

してきた。また、給与の公平性、部内均衡、納得性を重視してきた。

現在の本学教職員各人のトータルな給与は公務員給に対し遜色のない水準にあるといえる。

今後ともこの方針の下に本学の財政状態との整合性をはかり、教職員の待遇向上と本学の発展に寄与する給与制度を目指したい。

事務局長 辻倉 忠男

学生納付金の改訂について

本学学生納付金（以下学納金という）については、前回発行の第21号本学学報（平成6年7月16日）において、本学および他私立医科大学学納金の現況並びに本学の収支状況から、改訂を検討していることをお知らせ致しました。

理事会は、平成7年度学納金に関して審議を重ね、改訂案については教授会および附属看護専門学校の審議を経た上で、今後の人件費増、教育研究体制の維持向上を支える財政基盤を補強するために、大学及び大学院学納金並びに看護専門学校学納金をそれぞれ下記のとおり改訂することに致しました。

記

	学 納 金	平成7年度	平成6年度
大 学 (医 学 部)	授 業 料	150万円	100万円
	施 設 拡 充 費	100万円	70万円
大 学 院	入 学 検 定 料	2万円	1万円
	入 学 金	23万円	6万円
	授 業 料	27万円	10万円
附 属 看 護 専 門 学 校	入 学 金	10万円	8万円
	授 業 料	18万円	12万円
	実 験 実 習 料	1万2千円	6千円

学 則 の 改 正

大阪医科大学、大学院、附属看護専門学校の学則は、平成7年度学生納付金が改訂されたこと、並びに国の定める関係法令が改正されたことに伴い、それぞれの学則を次のように改正しました。

大阪医科大学学則の一部改正

大学学生納付金の改訂、および学校教育法施行規則、大学設置基準の一部改正により、これに関する本学学則の条文を下記の通り改正しました。

新 旧 対 照 表

新						旧					
<p>第21条 進学課程に入学をしうる者は次の各号の1に該当する者でなければならない。</p> <p>一 高等学校を卒業した者</p> <p>二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）</p> <p>三 外国に於て学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの</p> <p>四 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した<u>在学教育施設</u>の当該課程を修了した者</p> <p>五 文部大臣の指定した者</p> <p>六 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者</p> <p>七 相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者</p> <p>2 専門課程に進学できる者は本学の進学課程を修了した者と本学が認めたもの</p> <p>3 専門課程の初年次に欠員のある場合学校教育法第56条第2項及び同法施行規則第69条の2に該当する者は入学させることができる。</p> <p>第40条 授業料その他の納入金及び納入期限は、次の通りとする。</p>						<p>第21条 進学課程に入学をしうる者は次の各号の1に該当する者でなければならない。</p> <p>一 高等学校を卒業した者</p> <p>二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）</p> <p>三 外国に於て学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの</p> <p>四 文部大臣が高等学校の課程に<u>相当する課程</u>を有するものとして<u>指定した</u>在学教育施設の当該課程を修了した者</p> <p>五 文部大臣の指定した者</p> <p>六 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者</p> <p>七 相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者</p> <p>2 専門課程に進学できる者は本学の進学課程を修了した者と本学が認めたもの</p> <p>3 専門課程の初年次に欠員のある場合学校教育法第56条第2項及び同法施行規則第69条の2に該当する者は入学させることができる。</p> <p>第40条 授業料その他の納入金及び納入期限は、次の通りとする。</p>					
期 間	納入期限	納 入 金 額			計	期 間	納入期限	納 入 金 額			計
		授業料	実習料	施設拡充費				授業料	実習料	施設拡充費	
第1期	4月15日	50万円	10万円	34万円	94万円	第1期	4月15日	34万円	10万円	24万円	68万円
第2期	9月15日	50万円	10万円	33万円	93万円	第2期	9月15日	33万円	10万円	23万円	66万円
第3期	1月15日	50万円	10万円	33万円	93万円	第3期	1月15日	33万円	10万円	23万円	66万円
合 計		150万円	30万円	100万円	280万円	合 計		100万円	30万円	70万円	200万円

新	旧
<p>2 前条に定めるもののほか、次の諸費を入学時に一括納入しなければならない。</p> <p>(1) 入 学 金 100万円</p> <p>(2) 教育充実費 950万円</p> <p>第11章 収容定員</p> <p>第45条 本大学の<u>収容定員</u>は入学定員100名、総定員600名とする。</p> <p>第14章 委託生及び聴講生</p> <p>第50条 <u>削 除</u></p> <p>第51条 <u>削 除</u></p> <p>第52条 <u>削 除</u></p> <p>附則 この改正は、平成7年4月1日から施行する。 <u>但し、平成6年度以前から在学する者については、改正後の第40条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。</u></p>	<p>2 前条に定めるもののほか、次の諸費を入学時に一括納入しなければならない。</p> <p>(1) 入 学 金 100万円</p> <p>(2) 教育充実費 950万円</p> <p>第11章 学生定員</p> <p>第45条 本大学の<u>学生定員</u>は入学定員100名、総定員600名とする。</p> <p>第14章 委託生、聴講生、及び外国人特別学生</p> <p>第50条 <u>第21条規定の受験資格のない外国人であって外務省の在外公館の紹介あるものは学力を審査の上外国人特別学生として定員外に若干名を限って入学を許可することがある。</u></p> <p>第51条 <u>外国人特別学生が所定の課程を卒ったときは之に卒業証書を授与する。</u></p> <p>第52条 <u>外国人特別学生に関し特に規定あるものの外は一般規定を準用する。</u></p>

大阪医科大学大学院学則の一部改正

大学院学生納付金の改定および大学院設置基準および学位規則の一部改正により、これに関する大学院学則の条文を下記の通り改正しました。

新 旧 対 照 表

新	旧
<p>第3章 収容定員</p> <p>第5条 医学研究科の収容定員は入学定員54名、総定員216名とし、各系専攻別入学定員を次のとおりとする。</p> <p>形態系 10名 機能系 8名 社会医学系 4名 内科系 14名 外科系 18名</p> <p>第9条 医学研究科に4年以上（第8条第1号但し書に該当する者については、3年以上）在学して、所定の単位を修得し、学位論文の審査を経て、最終試験に合格した者には<u>博士（医学）</u>の学位を授与する。</p> <p>第10条 医学研究科の博士課程を経ない者において、学位論文を提出し、その審査の結果、第9条と同等以上の内容を有するものと認められ且つ専攻学術に関し同様の学識を有することを試問により確認された者に、<u>博士（医学）</u>の学位を授与する。</p> <p>第23条 医学研究科に入学を志願する者は入学検定料として、<u>2万円</u>を納付しなければならない。</p> <p>第23条の2 医学研究科に入学を許可された者は入学金として、<u>23万円</u>を納付しなければならない。</p> <p>第23条の3 医学研究科の授業料は年額<u>27万円</u>、実習料は年額15万円とする。</p> <p>附則 この改正は、平成7年4月1日から施行する。 <u>但し、第23条の規定は、平成7年度の入学者選抜試験から適用し、平成6年度以前から在学するものについては、改正後の第23条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。</u></p>	<p>第3章 学生定員</p> <p>第5条 医学研究科の学生定員は入学定員54名、総定員216名とし、各系専攻別入学定員を次のとおりとする。</p> <p>形態系 10名 機能系 8名 社会医学系 4名 内科系 14名 外科系 18名</p> <p>第9条 医学研究科に4年以上（第8条第1号但し書に該当する者については、3年以上）在学して、所定の単位を修得し、学位論文の審査を経て、最終試験に合格した者には<u>医学博士</u>の学位を授与する。</p> <p>第10条 医学研究科の博士課程を経ない者において、学位論文を提出し、その審査の結果、第9条と同等以上の内容を有するものと認められ且つ専攻学術に関し同様の学識を有することを試問により確認された者に、<u>医学博士</u>の学位を授与する。</p> <p>第23条 医学研究科に入学を志願する者は入学検定料として、<u>1万円</u>を納付しなければならない。</p> <p>第23条の2 医学研究科に入学を許可された者は入学金として、<u>6万円</u>を納付しなければならない。</p> <p>第23条の3 医学研究科の授業料は年額<u>10万円</u>、実習料は年額15万円とする。</p>

大阪医科大学附属看護専門学校学則の一部改正

本学附属看護専門学校学納金の改訂により、これに係る同校校則の条文を下記の通り改正しました。

新 旧 対 照 表

条文	新						旧					
	課 程	学科名	入 学 検定料	入学金	授業料 (年額)	実験実習費 (年額)	課 程	学科名	入 学 検定料	入学金	授業料 (年額)	実験実習費 (年額)
第24条	看護専門 課程	第1看護 学科	15,000円	100,000円	180,000円	12,000円	看護専門 課程	第1看護 学科	15,000円	80,000円	120,000円	6,000円
別表2	看護専門 課程	第2看護 学科	15,000円	100,000円	180,000円	12,000円	看護専門 課程	第2看護 学科	15,000円	80,000円	120,000円	6,000円
附 則	この改正は、平成7年4月1日より施行する。 但し、平成6年度以前より在学する者については、 改正後の第24条別表2の規定にかかわらず、なお、 従前の例による。											

人 事

〔採 用〕

助 手	横田 伸吾 (神経精神医学)	8. 1
〃	稲多 正充 (脳神経外科学)	〃
〃	川西 昌浩 (〃)	〃
〃	桶田 正成 (整形外科学)	〃
事務員	吉田 真弓 (総務部庶務課)	〃
助 手	難波隆一郎 (放射線医学)	9. 1
〃	岡本由記子 (産婦人科学)	〃
〃	岡本 吉明 (〃)	〃
〃	鶴長 建充 (〃)	〃
事務員	大野 浩二 (図 書 館)	9.16
看護婦	稲垣 江美 (病院看護部)	〃
助 手	岡本 明弘 (医 化 学)	10.1
〃	仁木 正己 (一般・消化器 外 科 学)	〃
総務部長	多田 數義 (総 務 部)	〃
助 手	高木 伸介 (皮 膚 化 学)	11.1
〃	前島 精治 (〃)	〃
技術員	森 篤史 (歯科口腔外科)	〃

〔退 職〕

助 教 授	奥西 秀樹 (薬 理 学)	7.31
助 手	長井 曜子 (神経精神医学)	〃
事務員	矢富 葉子 (総務部庶務課)	〃
主 任	小坂千代子 (病院看護部)	〃
看護婦	松本 圭子 (〃)	〃
〃	大城加代子 (〃)	〃
助 手	雑賀 良典 (放射線医学)	8.31
〃	熊谷 広治 (産婦人科学)	〃
〃	岩井 恵美 (〃)	〃
〃	寺井 義人 (〃)	〃
事務員	山田とく子 (図 書 館)	〃
看護婦	山岡 亜紀 (病院看護部)	〃
〃	三重野智子 (〃)	〃
講 師	中田 英二 (一般・消化器 外 科 学)	9.30
事務員	黒田 宏美 (病院事務部 医 事 課)	〃
看護婦	南 良江 (病院看護部)	〃
〃	南條 浩美 (〃)	〃
技術員	仁多見順子 (病院輸血室)	10.15

助 手	田中 功 (皮膚科学)	10.31
〃	辻 厚子 (〃)	〃
看護婦	朝比奈良江 (病院看護部)	〃

〔昇格・異動〕

昇 格

総務部長 保安課長	岩城 良治 (保安課長代理)	11.1
病院事務部長 医事課長	西川 昭 (医事課長代理)	〃
病院事務部長 施設課長	楠元 肇 (施設課長代理)	〃
病院事務部長 施設課長代理 (汽缶担当)	植田 正実 (施設課長補佐)	〃
病院事務部長 施設課長代理 (電気担当)	小見 義信 (〃)	〃
病院薬剤部 製剤薬品情報課長代理	中尾伊都子 (薬務管理課長補佐)	〃
病院薬剤部 薬品管理課長代理	秋田 菊代 (薬品管理課長補佐)	〃
病院薬剤部 薬務管理課長代理	竹村喜一郎 (薬剤課長補佐)	〃
病院薬剤部 薬務管理課長補佐	若林 啓子 (薬剤課主任)	〃
病院薬剤部 製剤薬品情報課長補佐	上田 倫子 (製剤薬品情報課主任)	〃
病院薬剤部 薬品管理課長補佐	木山 治 (薬品管理課主任)	〃

総務部長 保安課主任	田中 修 (保安課守衛)	〃
病院看護部 臨床指導者	高橋 典子 (臨床指導者代理)	〃
〃	川西いづみ (〃)	〃

異 動

病院薬剤部 薬剤課長補佐	西橋 正芳 (製剤薬品情報課長補佐)	11.1
病院薬剤部 薬務管理課主任	傍島 悦子 (薬品管理課主任)	〃

〔休職・復職〕

休 職

助 手	石橋伊三郎 (整形外科)	8. 1
〃	小川 竜介 (脳神経外科学)	8.15
臨床指導者	田尻 后子 (病院看護部)	9.13
講 師	山本 雄三 (耳鼻咽喉科学)	11.1

復 職

講 師	渡邊 房男 (化 学)	8. 1
〃	中張 隆司 (生理学 I)	9. 1

〔委嘱・解嘱〕

委 嘱

学内講師

助 手	坪倉 省吾 (産婦人科学)	8. 1
〃	小玉 敏宏 (胸部外科学)	10.16
〃	平石久美子 (放射線医学)	〃

機器共同利用センター運営委員会委員

講 師	宋 景富 (薬 理 学)	9.21
-----	--------------	------

治験審査委員会委員

教 授	宮崎 瑞夫 (薬 理 学)	10.1
〃	大澤 伸昭 (内 科 学 I)	〃
〃	堺 俊明 (神経精神医学)	〃
〃	島原 政司 (口腔外科学)	〃

事務局長	辻倉 忠男 (事 務 局)	〃
------	---------------	---

薬剤部長	古家 鞆弘 (病院薬剤部)	〃
------	---------------	---

法医学講座担当教授選考委員会委員

教 授	島田 眞久 (解剖学 II)	10.19
〃	芝山 雄老 (病理学 I)	〃
〃	吉田 康久 (衛生学・ 公衆衛生学)	〃
〃	勝 健一 (内科学 II)	〃
〃	島原 政司 (口腔外科学)	〃
助 教 授	渡辺 正仁 (解剖学 II)	〃
〃	河野 公一 (衛生学・ 公衆衛生学)	〃
講 師	前田 環 (病理学 II)	〃
〃	森松 伸一 (微生物学)	〃
助 手	塩田 直孝 (薬 理 学)	11.2
〃	宮崎 時子 (法 医 学)	〃

同上委員会委員長

〃 吉田 康久 (衛生学・公衆衛生学) 11.2

産婦人科学講座担当教授選考委員会委員

教授 大槻 勝紀 (解剖学Ⅱ) 10.19

教授 大澤 仲昭 (内科学Ⅰ) 〃

〃 佐々木進次郎 (胸部外科学) 〃

〃 高橋 宏明 (耳鼻咽喉科学) 〃

〃 植林 勇 (放射線医学) 〃

助教授 高崎 登 (泌尿器科学) 〃

〃 田中 嘉雄 (形成外科学) 〃

講師 近藤敬一郎 (胸部外科学) 〃

講師 岡村 信介 (産婦人科学) 〃

助手 川村 尚久 (小児科学) 〃

〃 植田 政嗣 (産婦人科学) 〃

同上委員会委員長

教授 大澤 仲昭 (内科学Ⅰ) 11.2

解 嘱

総務部長兼務

事務局長 辻倉 忠男 (事務局) 10.1

[海外渡航]

留 学

小川 竜介 (脳神経外科学助手)

アメリカ (バージニア大学) 6.8.15 ~ 7.8.14

田尻 后子 (病院看護部臨床指導者)

アメリカ (ELSランゲージセンター)

6.9.13 ~ 12.31 (延長)

山本 雄三 (耳鼻咽喉科学講師)

アメリカ (テキサス大学) 6.11.1 ~ 7.4.30

帰 学

渡邊 房男 (化学講師)

アメリカ (テキサス大学) 5.8.1 ~ 6.7.31

中張 隆司 (生理学Ⅰ講師)

カナダ (トロント大学) 4.11.1 ~ 6.8.31

出 張

島田 眞久 (解剖学Ⅱ教授)

渡辺 正仁 (〃 助教授)

小西 正良 (〃 講師)

早崎 華 (〃 助手)

ポルトガル (リスボン) 7.23 ~ 7.31

中務 真人 (解剖学Ⅰ学内講師)

インドネシア (バリ) 8.1 ~ 8.10

大澤 仲昭 (内科学Ⅰ教授)

北岡 治子 (〃 学内講師)

カナダ (トロント) 8.20 ~ 8.27

玉井 浩 (小児科学学内講師)

川村 尚久 (〃 助手)

中国 (桂林) 8.25 ~ 8.28

清水 章 (病態検査学教授)

中西 豊文 (〃 助手)

ハンガリー (ブダペスト) 8.27 ~ 9.9

浅井 一視 (生物学講師)

ロシア (ウラジオストック他) 8.28 ~ 9.11

中井 益代 (微生物学教授)

タイ (バンコク) 8.29 ~ 9.3

河野 公一 (衛生学・公衆衛生学助教授)

渡辺 美鈴 (〃 助手)

中国 (北京) 8.30 ~ 9.9

島原 政司 (口腔外科学教授)

中国 (北京・上海) 8.30 ~ 9.9

河村慧四郎 (内科学Ⅲ教授) 9.7 ~ 9.20

弘田 雄三 (〃 講師) 〃 ~ 9.15

ドイツ (ベルリン)

牧本 一男 (耳鼻咽喉科学助教授)

野井 理 (〃 助手)

フランス (モンペリエ) 9.9 ~ 9.18

堺 俊明 (神経精神医学教授)

米田 博 (〃 助教授)

デンマーク (コペンハーゲン) 9.13 ~ 9.25

小野村敏信 (整形外科学教授)

スイス (ヌーシャテル) 9.14 ~ 9.21

河野 公一 (衛生学・公衆衛生学助教授)

イギリス (ロンドン他) 9.14 ~ 9.23

平井 景 (泌尿器科学助手)

オーストラリア (シドニー) 9.19 ~ 9.23

永田 裕人（整形外科学助手）
 アメリカ（ポートランド）9.19～10.2

杉本 修（産婦人科学教授）
 奥田喜代司（〃 講師）
 カナダ（モントリオール）9.23～10.2

中島 幹雄（整形外科学助手）
 イタリア（ナポリ）9.26～10.3

長谷川 稔（内科学Ⅱ助手）
 アメリカ（シカゴ）9.30～10.6

西村 忠史（小児科学診療教授）
 アメリカ（オーランド）10.1～10.8

岡島 邦雄（一般・消化器外科学教授）
 中国（大連）10.2～10.8

三牧 孝至（小児科学講師）
 アメリカ（サンフランシスコ）10.2～10.10

北 祥男（内科学Ⅲ助手）
 アメリカ（サンフランシスコ）10.4～10.10

玉井 浩（小児科学学内講師）
 ドイツ（ベルリン）10.4～10.18

田中 英高（小児科学学内講師）
 アメリカ（ロチェスター）10.18～10.26

平田 一郎（内科学Ⅱ講師）
 スウェーデン（ストックホルム）
 10.22～10.28

植林 勇（放射線医学教授）
 末吉 公三（〃 講師）
 辰 吉光（〃 助手）
 難波隆一郎（〃 〃）
 オーストラリア（シドニー）10.22～10.30

今井 雄介（生理学Ⅰ教授）
 中国（上海）11.1～11.11

叙 勲

勲四等旭日小受章 木原 隆先生

平成6年秋の叙勲において名誉教授木原隆先生（解剖学）が、長年の教育・研究の功勞に対して11月3日勲四等旭日小受章を授章されました。

教 室 紹 介

整 形 外 科 学 教 室

運動機能の回復・維持・増進

—世のニーズに応じて—

教授 小野村 敏信

本学の整形外科学教室は昭和27年4月に開講され、初代横山哲雄教授、第2代有原康次教授、第3代小野村敏信教授に引き継がれて現在に至っている。整形外科学は身体の支持・運動に関する器官の疾患を取り扱う医学であるが、社会の進歩とともに生命の維持に加えてより高い社会生活の質がもとめられることとなり、運動機能の回復と増進について本学には大きな期待が寄せられ、取り扱う患者数の増加とその内容の变



腰部椎間板ヘルニアに対する
レーザー蒸散法による手術の様子

化には目覚ましいものがある。

教室における診療および研究の内容にはいくつかの柱があり、それぞれグループを作って活動している。現在教室における研究班には脊椎疾患、手の外科、足の外科、関節外科、小児整形外科、骨腫瘍、スポーツ障害、リハビリテーション医学、超音波診断、レーザー医学などがあり、その中のいくつかは本学の他教室あるいは他学と協同した研究を行ってきた。基礎的には脊椎髄の発生およびその異常、脊椎のバイオメカニクス、末梢神経の機能と障害、骨塩の動態、骨延長法、四肢の先天異常、足の形態と機能などについて、臨床を見据えて研究が行われている。臨床的には前記の診療研究班がそれぞれ精力的に取り組んでいるが、その中でも脊椎の変形や変性疾患に対する治療法、椎間板ヘルニアに対するレーザー髄核蒸散法、長管骨の延長法、手の外科疾患の治療法、四肢の関節置換術と新しい人工関節の開発、スポーツ障害の治療と予防、鏡視下手術・微小手術法、運動器の超音波診断法、転移性骨腫瘍の予後推定と治療、理学的診療の理論と方法などについては、すでに少なからぬ成果が出されている。それらのうち分類法、診断法、手術法、装具などのいくつかについては、本学あるいは本学研究者の名を冠した方式として、国内・国外において高い評価をえている。

教室の週間のスケジュールとしては毎日の普通外来診療に加えて教授回診、それぞれの班回診、症例検討会、症読会、2乃至3日の手術日、特殊検査日、特殊外来日などが組まれている。入院患者は平均80ないし90名であるが年間の新患者数が約5000名であり、常に約150名の入院待ち患者を抱えて物理的、時間的に対応のむづかしいことが頭を悩ませる問題である。現在2人以上の教室員が派遣されている関連施設は約30病院であるが、それぞれ有機的な関係を保つよう努力されており、症例検討会などはそれら

の人たちを加えて活発である。国内外との交流も積極的に行っており、いくつかの学会については当教室に事務局がおかれ、国内あるいは国際的な窓口を務めている。このようなことから外国からのビジターも多く、外国施設との医師の交換研修も行っている。

診療や研究の忙しさが多くの教室員の共通の悩みではあるが、スポーツやリクリエーションは盛んであり、医局旅行、ゴルフコンペ、他大学との野球・庭球の交流試合、冬期の梅池スキー診療所の担当などが年間のスケジュールに組み込まれ、医局関係者の楽しみとなっている。

社会的なニーズに対して質・量ともに応えうる診療・研究態勢をつくること、そしてそれにかなる医療人を育てることが教室の願いである。

(文責 小野村)

平成5年度盛記念学術賞授与式について

前学報(第21号)でお知らせしました平成5年度盛記念学術賞の受賞者(赤尾幸博助教授(第一解剖学)、河野公一助教授(衛生学・公衆衛生学))2名の方に対する授与式が、8月26日(金)午後4時より、第二会議室において、学長始め運営委員の方々出席のもとに執り行われました。



教授候補者の公募について

現在欠員となっている物理学および麻酔科学担当教授の選考を行うことになりました。

応募要項は次のとおりです。

<物理学担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自選または他薦によります。

(別紙 本学教授選考規程第6条参照)

- 1) 提出書類 (同封の様式従って下さい)
 - ・履歴書 (様式1)
 - ・教育・研究活動の概要および将来の抱負 (A4用紙<縦>に横書2000字程度にまとめて下さい)
 - ・研究業績目録 (様式2)
 - ・主要論文 (5編、別刷各5部) (コピーでも可)
 - ・他薦の場合は推薦書 (様式3) および本人の同意書 (様式随意、A4用紙) を添付して下さい。
- 2) 締切期日 平成6年11月30日 (水) 必着
- 3) 提出先 高槻市大学町2番7号 (〒569)

大阪医科大学総務部庶務課気付
物理学担当教授選考委員会
(0726 - 83 - 1221 代)

添付書類 ・本学教授選考規程 (抜粋)
・履歴書 所定形式
・業績目録 所定形式
・推薦書 所定形式

附記：選考の過程で、応募者にお会いし、講演をお願いする場合があります。

<麻酔科学講座担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自選または他薦によります。

(別紙 本学教授選考規程第6条参照)

- 1) 提出書類 (同封の用紙を使用して下さい)
 - ・履歴書 (様式1)
 - ・臨床・教育・研究歴 (臨床・教育・研究活動の概要および将来の抱負をA4用紙<縦>に横書2000字程度にまとめて下さい)
 - ・研究業績目録 (様式2)
 - ・主要論文 (5編、別刷各5部) (コピーでも可)
 - ・他薦の場合は推薦書 (様式3) および本人の同意書 (様式随意、A4用紙) を添付して下さい。
- 2) 締切期日 平成6年11月15日 (火) 必着
- 3) 提出先 高槻市大学町2番7号 (〒569)

大阪医科大学総務部庶務課気付
麻酔科学講座担当教授選考委員会
(0726 - 83 - 1221 代)

添付書類 ・本学教授選考規程 (抜粋)
・履歴書 所定形式
・業績目録 所定形式
・推薦書 所定形式

附記：選考の過程で、選考委員会が応募者の方とお会いする機会を持ちたいと存じます。

法医学講座および産婦人科学講座担当教授候補者の公募について

法医学講座担当の溝井泰彦教授及び産婦人科学講座担当の杉本 修教授の2教授が明年3月31日付をもって定年退職されます。つきましては、その後任についても公募が行われることになっておりますので、次号においてその詳細をお報せいたします。

学 位 記 授 与

平成6年7月20日

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第481号	中 野 隆 史	An Improved Non-Radioisotopic Reverse Transcriptase Assay and Its Evaluation (非放射性逆転写酵素活性測定法の改良とその評価)
甲第482号	平 野 量 哉	Homocysteine induces iron-catalyzed peroxidation of lowdensity lipoprotein that is prevented by alpha-tocopherol (LDLの鉄触媒酸化に対するホモシステイン促進作用および、トコフェールの抑制効果に関する研究)
甲第483号	難 波 直 樹	A new method of quantitating serum and urinary levels of 1.5-anhydroglucitol in insulin-dependent diabetes mellitus (インスリン依存性糖尿病における血中、尿中1.5-anhydroglucitolの新しい測定法について)
甲第484号	山 名 健	全身麻酔下における体位変換と気腹が循環動態に及ぼす影響に関する実験的研究
乙第621号	江 頭 由 太 郎	胃分化型腺癌の粘液組織化学的検討
乙第622号	吉 村 憲 治	Role of Prostaglandin E2 in Cholinergic-Mediated Glycoprotein Synthesis in Canine Antrum (犬胃前庭部のコリン作動性粘液糖蛋白産生におけるプロスタグランジンE2の役割)
乙第623号	田 橋 賢 久	胃潰瘍治癒に関する実験的研究 -Growth Factorと間葉系細胞を中心に-
乙第624号	森 川 浩 志	微小陥凹型大腸腫瘍の臨床病理学的研究 -ピットパターンと悪性率・腺管密度・腫瘍腺管粘膜全層置換率の関係-
乙第625号	野 中 親 哉	各種胃疾患における Helicobacter pylori 感染と胃粘膜リンパ球サブセットの検討
乙第626号	辻 良 一	Human heart-type cytoplasmic fatty acid-binding protein in serum and urine during hyperacute myocardial infarction (ヒト心筋由来脂肪酸結合蛋白 -超急性期心筋梗塞における血清・尿中測定の有用性-)
乙第627号	中 村 明 裕	Exocytosis in the Lingual Mucus Cells of Rana esculenta Evoked by Acetylcholine : Observation of Living Cells by Confocal Laser Scanning Microscopy (共焦点レーザー顕微鏡を用いたアセチルコリン刺激によるカエル舌腺の生きた細胞での開口分泌の観察)
乙第628号	安 藤 ルリ子	Simultaneous measurement of hair and bone mineral content in severely handicapped children (重症心身障害児の毛髪中元素および骨塩量の同時測定)
乙第629号	中 西 豊 文	異常ヘモグロビンおよび糖鎖欠損トランスフェリンの質量分析による迅速検査法

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第630号	高 畑 龍 一	Intravenous administration of inorganic selenium compounds, inhibitors of prostaglandin D synthase, inhibits sleep in freely moving rats (プロスタグランジンD 合成酵素活性阻害物質であるセレンウムの静脈内持続投与による睡眠抑制について)
乙第631号	川 元 達 彦	Tissue-Selective and Age-Related Increase of Angiotensin-Converting Enzyme in the Blood Vessels of Spontaneously Hypertensive Rats (高血圧自然発症ラット (SHR) の血管におけるアンジオテンシン変換酵素の組織選択的かつ加齢に相関した増加)
乙第632号	田 中 春 樹	Lipoproteins in Obese Japanese Children (日本人小児肥満におけるリポ蛋白について)
乙第633号	山 本 喜 英	皮膚保存における過剰炭酸ガス環境の影響に関する実験的研究 -皮膚酸素消費率の測定-
乙第634号	宮 前 有 子	飲酒による痛覚域値の変化
乙第635号	辻 口 幸之助	ミニプレートの固定力に関する力学的実験的研究
乙第636号	蔣 岩	Anti-HIV-1 Activity of Polygonum Cuspidatum Extract in vitro (虎杖の試験管内の抗 HIV-1 活性)
乙第637号	木 勢 基 子	ヨードチンキ塗布療法における Molluscum contagiosum virus の超微形態学的観察
乙第638号	辻 雅 夫	Pressure gradients between intraluminal and extraluminal spaces may affect the potassium induced contraction in the rabbits basilar arteries (灌流システムを用いた家兎脳底動脈の薬理学的反応に関する研究 -特に脳血管内・外腔の物理的圧勾配がカリウム収縮に及ぼす影響について-
乙第639号	矢 野 基	1) ラット下肢におけるリンパ浮腫モデルの作成 2) リンパ浮腫に対する各種ドレナージ手術の実験的研究
乙第640号	石 田 裕 二	Red Blood Cell Sorbitol in Diabetic Children (糖尿病小児における赤血球ソルビトール)

大阪医科大学俳句会八月／九月例会より

二人共嫁は賢妻居待月
 当月の家計不如意や糸とんぼ
 ぶだう狩食べ放題は園の中
 テレクラのびらがたべたべた西鶴忌
 誘はれて宿の下見や月見酒
 颯風に祈りたるだけ雨の降る
 充電の針の振れたる休暇明け
 盆僧の老の押絵をほめにけり
 かあさんと呼ばぬ日はなし子規忌かな
 名探偵みんな独身銀やんま

塚本 妙子
 吉田 孝江
 宮崎 真紀
 山崎 隆司
 塚本 務人
 今井 雄介
 藤澤 良行
 中川 一成
 梶野香代子
 奥田 筆子

平成7年度入学試験要項（概要）

平成7年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校それぞれの入学試験要項が決定いたしましたのでその概要をお知らせします。

I) 医学部医学科

1) 入学願書受付期間

平成7年1月10日（火）～2月7日（火）

2) 学科試験日および試験科目

月日(曜)	時 間	教 科	科 目 (出 題 範 囲)
2月21日 (火)	9:30～11:10(100分)	数 学	数学Ⅰ, 代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計 (統計を除く)
	12:30～14:30(120分)	理 科	物理, 化学, 生物(各科目は理科Ⅰの内容を含む)のうちから 2科目選択
	15:30～17:00(90分)	外 国 語	英語Ⅱ・ⅡB・ⅡC

3) 試験場

関西大学・千里山第2学舎(大阪府吹田市千里山)

4) 学科試験合格者発表

3月3日(金)午後4時 本学専門部および教養部構内に掲示するとともに、出願者全員に対して、電子郵便で「学科試験合格者受験番号一覧表」を送付します。

5) 面接試験・小論分および身体検査

3月8日(水)午前8時20分(学科試験合格者のみ)

6) 合格者発表

3月9日(木)午後5時、合格者を本学専門部及び教養部構内に提示し、本人宛(保護者現住所)にも合格通知書並びに入学に関する手続書を送付する。

7) 入学検定料 40,000円

8) 納 付 金 (入学時)

納 付 金	金 額
入 学 金	1,000,000円
授 業 料(第Ⅰ期分)	500,000円
実 習 料(第Ⅰ期分)	100,000円
施設拡充費(第Ⅰ期分)	340,000円
教 育 充 実 費	9,500,000円
小 計	11,440,000円
学 友 会 入 会 金	5,000円
学 友 会 会 費	4,500円
小 計	9,500円
合 計	11,449,500円

(注)

- 1) 授業料、実習料、施設拡充費は毎年3期分納とし、第2期分および第3期分はそれぞれ授業料50万円、実習料10万円、施設拡充費33万円である。
- 2) 2年次以降の納付金は毎学年280万円(授業料150万円、実習料30万円、施設拡充費100万円)である。

★入学手続を完了した者で3月27日(月)正午までに書類により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納付金を返還する。 ※ 上記納付金には消費税は課税されない。

II) 大学院医学研究科

- 1) 入学願書受付期間
平成7年1月6日(金)～1月19日(木)
- 2) 入学試験日時、試験科目および試験場

月 日(曜)	時 間	試 験 科 目	試 験 場
2月2日(木)	9:30～11:30	健康診断	本 学
	12:30～13:30	健康診断	
	13:30～16:00	面 接	
2月3日(金)	14:00～16:30	専攻科目	

3) 合格発表

平成7年3月4日(土)午前9時本学内に掲示すると共に本人宛にも通知する。

4) 入学検定料 20,000円

5) 納 付 金

納 付 金	金 額
入 学 金	230,000円
授業料(第1期分)	90,000円
実習料(第1期分)	50,000円
合 計	370,000円

(注)

- 1) 授業料、実習料は毎年3期分納とし、第2期分及び第3期分は、それぞれ授業料9万円、実習料5万円である。
 - 2) 2年次以降の納付金は、毎学年42万円(授業料27万円、実習料15万円)である。
- ※ 看護専門学校については次頁にあります。

文部省の補助金内定について

かねてより本学が申請していましたが平成6年度文部省の補助金は下記のとおり内定通知がありました。

平成6年度私立学校施設整備費補助金(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費)

装 置 名	購入価格(円)	補助金内定額(円)	納入業者名	納品 予定年月日
磁気共鳴による生体内代謝、動態、機能解析装置	369,000,000	179,050,000	ジーイー横河 メディカルシステム(株)	7. 2. 28

平成6年度私立大学研究設備整備等補助金(私立大学研究設備等整備費)

設 置 名	購入価格(円)	補助金内定額(円)	納入業者名	納品 予定年月日
高速生体反応光解析システム	24,189,972	15,620,000	ラクセイカガク(株)	7. 2. 28

平成6年度 科学研究費補助金交付二次内定について

文部省より標記の補助金交付について下記の通り内定通知がありました。

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内定額
一般研究 (C)	皮膚癌におけるヒト乳頭腫ウイルスと癌抑制遺伝子変異との関係の解析	皮膚科学講師	草壁 秀成	千円 700

看護専門学校

学 科	第一看護学科（三年課程）		第二看護学科（二年課程 全日制）	
募集人員	40 名		40 名	
受験資格	1) 高等学校卒業のもの、又はそれと同等の資格を有する者 2) 本年度中に上記の資格取得見込みの者		1) 高等学校衛生看護学科卒業及び卒業見込者 2) 高等学校を卒業し、准看護婦の資格を有する者 3) 准看護婦の免許を取得してから3年以上看護業務に従事している者	
	1 次 試 験	2 次 試 験	1 次 試 験	2 次 試 験
試験日時	平成7年1月29日（日） 9:00～15:30	平成7年1月31日（火） 8:00～	平成7年1月24日（火） 9:00～12:20	平成7年1月25日（水） 8:30～
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ・国語Ⅱ 数学Ⅰ 生物・化学・（夫々の科目は理Ⅰの範囲を含む）のうちいずれか1科目選択 英語Ⅱ 適性検査	身体検査 面 接	筆記試験 一般科目（数学Ⅰ、英語Ⅰ、国語Ⅰ） 専門科目（准看護婦課程において履修した科目） 適性検査	身体検査 面 接
試験場	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号
合格発表	平成7年1月30日（月） 12:00	平成7年2月4日（土） 12:00 合否については本人宛に郵送で通知する	平成7年1月25日（水） 8:00	平成7年1月28日（土） 12:00 最終合否については本人宛に郵送で通知する
	いずれも大阪医科大学正門の掲示板に発表する			
受験料	15,000 円			
受付期間	平成7年1月5日（木）～1月21日（土）消印有効 ※ 願書持参は平日9:00～16:30, 土曜日9:00～12:00とする （日曜、祝日を除く）		平成7年1月5日（木）～1月13日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日9:00～16:30, 土曜日9:00～12:00とする （日曜、祝日を除く）	
学 費	入 学 金 100,000円 授 業 料 180,000円（年額） 実験実習料 12,000円（年額）			
備 考	1年生は寄宿舎に入寮することを原則とする。			

海外出張記

第14回国際解剖学会に参加して

第2解剖学教室 助手

早崎 華

大西洋に注ぐテージョ川に面した古い町並みリスボンは、ヨーロッパ大陸最西端の首都である。ここはヨーロッパの他の国々のようにメジャーな歴史的モニュメントや、観光スポットはあまりないが、かつては日本にとってなじみの深い国であった。意外に知らないだけで、自然に使



展望台からリスボンの街をのぞむ

感激の国際学会初参加

五感に迫るリスボンの町

ている言葉で日本語になったポルトガル語もたくさんある。そんな懐かしいポルトガル、リスボンで5年に1回開催されている第14回国際解剖学会が開かれた。私は国際学会に参加するのは初めてで、何を見ても感激していた。学会には約1000題中、約100題余りが日本からの発表であった。本学からは、定量形態学のシンポジウムに、島田教授が膝関節の三次元構築に関する発表をした。私はその勇姿をビデオカメラで撮影した。ポスターセッションではカニクイザルの膝関節の構造に関する演題と肝臓におけるグルコーストランスポーターに関する演題を発表した。ポスターを展示するスペースは、私達が用意したポスターの半分も展示できないほど狭く、貼ったもの勝ちである。そこでは国際的陣取り合戦が繰り広げられた。学会も終わりに近づいてくると、他の国へ旅立つ人も増えて会場は日に日に人が少なくなっていった。そんな学会の合間に、リスボンとその郊外を探索した。

リスボンの夏は少し肌寒く、ゴトゴト走る路面電車の音、炭火で焼いたイワシのにおいそしてワイン、ぬけるような青い空、茶色の屋根に白い壁、これら全てが私の五感に訴えかけ、なぜかしら私を感傷的にさせる。リスボンの町並みは時間が穏やかに流れているようで昔日の面影を今でも残している、どこか哀愁を感じさせる光景である。そうそうこれと同じ光景をどこかで見た覚えがある。学会場のポスターの前にたっている一人の男、彼はポスターの前で銅像のようにたたずみ、そこに人が立っているのを学会場にいる全員が忘れてしまったかのように人々は過ぎ去っていく。彼の目は遠くを見つめていた。そんな姿を見てしまった私は、サクラとして声をかけずにいらなかった……。リスボンからフェリーに乗りテージョ川の対岸に渡り電車で約1時間の所にセトウバルという町がある。ポルトガル第3の工業都市だ。ここでポウザーダー（城をホテルにしたもの）に泊まった。部屋の窓から大西洋を眺めている私達はすっかり王様、女王様。客室の中には地下牢として使われていた、といういわくつきの部屋があるという。夕食まで時間があつたので城壁の上を散

歩した。強い海風を受けながらみんな物思いに耽っている。ただ時間だけが過ぎてゆくのに、みんな満足そうな表情を浮かべていた。

哀愁の国ポルトガルを旅していると土地の人がすごく親切な事に気がつく。道に迷っていると彼らの方から声をかけてきて丁寧に教えてくれる。物価も安く交通費なんて本当にこれだけでいいのだろうか、と心配するほどである。素朴で自分だけの旅行がしたい人は一度立ち寄ってみてはどうだろう。

海外研修レポート

この夏、医学部6回生、尾松公平、須磨升美、藤田佳津美の3名の方々が夏期休暇を利用してアメリカオハイオ州にあるコロンバス小児病院において約1週間の研修を受けられました。

研修終了後、その貴重な体験をレポートに纏めていただきましたのでここに紹介します。



写真後列中央尾松さん、右から2人目藤田さん、右端須磨さん

ハイレベルなナース

「コロンバス小児病院での研修を終えて」

6学年 須磨升美

突然、夏休みにアメリカのオハイオ州にある小児病院で、研修できることになった。アメリ

カでの生活は、ゲストハウスが与えられ快適であった。朝8時から夕方まで、オハイオ州立大学の医学生と一緒にポリクリ（臨床実習）をしたり、聴講したり、研究施設を見学するという毎日の中で、何かにつけ、日本とのあまりの違いに驚いてばかりであった。ピペット操作などの無用な手間を省いた自動化の進んだ研究室、清潔に管理された動物舎などは、さすがに研究の進んだアメリカだと思った。また噂には聞いていたがナースが、かなりのレベルまで医療行為をまかせられていることにも驚いた。病棟で聴診器を首にかけ、忙しく処置しているのはナースである。医師はというとオフィスのような部屋で、一人に1時間もの時間をかけて外来をしている。NICUでも驚いた。500gの未熟児が室温で寝かされているのである。日本では、保温ケースに入れ、目の色をかえ必死に救命している所である。ここでは全くそういう様子はない。自然淘汰されていくことを、ある程度受け入れているかのように思えた。日本では、過剰診療を問題にされるが、アメリカでは、本当に医療を必要とされる人々が医療を受けているのかもしれない。

最後に、短い間に大変大きな経験ができたことを、この研修を企画してくださった小児科の美濃先生初め諸先生方に感謝し、研修報告と致します。



医学の 散歩道

= 多動症候群 =

じっくり治療で
かなり改善可能

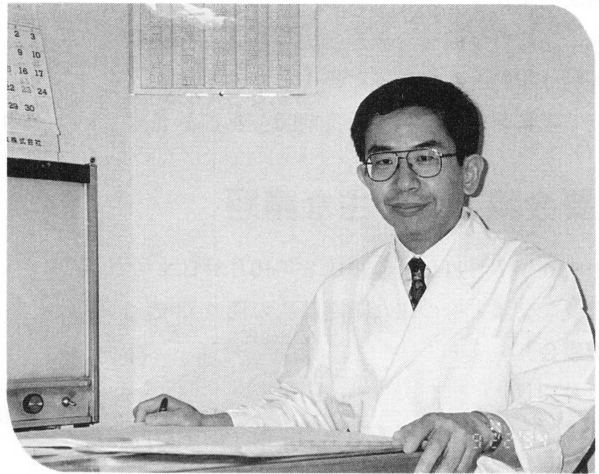
小児科学教室 講師

三 牧 孝 至

以前に5歳の男児を持つ母親から、次のような質問を受けました。その子は片時もじっとしておらず、動き回ってばかりいるのです。そこである病院を受診したところ、多動症候群と診断されました。質問の内容は、多動症候群とはどんな病気なのか、小学生になれば、勉学に影響が出るのではないかと、というものでした。

一般に5歳以下の子どもさんは落ち着きがありませんが、多動症候群の子はその程度が違います。いつもそわそわして、一つのことに集中できません。診察室でもいすに座っておれず、立ち上がったたり、ベッドの上で飛び回ったり、外に飛び出したりします。学校でも同じ状態なので、まともに授業を受けられず、学習の遅れが出てきます。

ではなぜこのような症状が起きるのでしょうか。それは認知・学習に関する大脳皮質と、運動・情緒にかかわる皮質下機構の連動機能が障害されているからで、従来から微細脳障害候群と呼ばれているものです。その根底には脳の未熟性があり、脳そのものの異常は通常の診察では見つかりません。知能は正常か、軽い遅れがみられる程度です。通常は行動異常か学習障害、あるいはその両方を伴います。多動症候群の子の多くは脳波異常が見られますが、てんか



診療中の三牧先生

ん性の異常波とははっきり区別されます。男児に多く、大半が幼稚園に入園後に受診してきます。最近では脳の画像診断の技術が飛躍的に進歩したため、頭部CTスキャン、MRI検査も施行します。知能発達テストや心理テストも必ず行います。

多動症候群の原因は残念ながらよくわかっていません。遺伝性の因子や素因、アレルギー体質、微量元素やビタミンなどの不足、放射線や食品添加物の影響、母親の妊娠中の飲酒や喫煙、妊娠中のカフェインの過剰摂取、胎内発育不全、未熟児、早産児、周産期異常、愛情の欠如、虐待などが考えられています。これらの要因のいくつかがからみあっていと考えられます。

治療法は、生活指導と学習指導が基本となります。じっとさせようと強制したり、しかったりすると、かえってひどくなります。一番おすすめできる方法は、兄や姉代わりになって患児に接してもらえそうな気心の知れた家庭教師をつけることです。マンツーマンで遊びを取り入れながら何かその子の興味を持つことに目を向かせて、うまく学習の遅れも取り戻すようにもっていくのがコツです。このようにして、子どものレベルに応じてじっくり取り組めば、かなり改善が期待できます。

重症の場合は、速効性のある、向精神薬や脳

代謝賦活薬などの薬物療法を行います。大脳皮質および皮質下機構の発達と並行して、一般的に多動は年齢と共に徐々に軽快していきます。ただし学習障害の改善には長期間を要します。

主要会議とその主な議題

平成6年7月11日より平成6年10月31日までの主要な会議とその主な議題は次の通りです。

〔理事会〕

(7月12日)

1. 大阪医科大学附属看護専門学校学則中一部改正の件

2. 学納金に関する件

(8月9日)

1. 学納金に関する件

(9月13日)

1. 大阪医科大学学則中一部改正の件

2. 大阪医科大学大学院学則中一部改正の件

3. 日本私学振興財団借入金の件

(10月11日)

1. 定員変更の件

2. 要望書に関する件

〔教授会〕

(7月20日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用)

2. 教授選考に関する件(物理学・麻酔科学講座)

3. 本学図書館利用内規(案)に関する件

4. 教育検討委員会の上申に基づくカリキュラム改革へむけての専門委員会(ワーキンググループ)の設置に関する件

5. 周産期センター助教授定員(講師定員振替)の設置に関する件

(9月7日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用および招聘外国人学者の受け入れ)

2. 教授選考に関する件(物理学・麻酔科

学講座)

3. 学生の休学願出に関する件

4. 学則中一部改正に関する件

(9月21日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用)

2. 教授選考に関する件(物理学・麻酔科学講座)

3. 機器共同利用センター運営委員会委員の委嘱に関する件

4. 治験審査委員会委員の委嘱に関する件

(10月5日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用)

2. 教授選考に関する件(法医学講座・産婦人科学講座)

(10月19日)

1. 教授選考に関する件(法医学講座・産婦人科学講座)

2. 平成7年度授業時間割編成に関する件

〔大学院医学研究科委員会〕

(7月20日)

1. 学位論文審査に基づく合(否)決定に関する件

2. 研究生の願出に関する件

(9月7日)

1. 大学院学則中一部改正に関する件

(9月21日)

1. 研究生の願出に関する件

(10月19日)

1. 平成7年度大学院学生募集に関する件

2. 学位論文受理に関する件

3. 研究生の願出に関する件

主要日程表

(平成6年11月1日～平成7年1月31日)

11月1日から平成7年1月31日までの学内における主要な予定は次の通りです。

11月2日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 9日（水）平成6年度医学会秋季学術講演会 | 第一看護学科（3年課程） |
| 10日（木）理事会 | （1月21日まで） |
| 16日（水）教授会、大学院医学研究科委員会 | 第二看護学科（2年課程） |
| 30日（水）理事会・評議員会 | （1月13日まで） |
| 12月 3日（土）進学課程学年末試験（12月16日まで） | 6日（金）大学院医学研究科入学願書受付開始（1月19日まで） |
| 7日（水）教授会、大学院医学研究科委員会 | 9日（月）教授会、大学院医学研究科委員会 |
| 12月10日（土）動物慰霊祭 | 医学部第3学期授業開始 |
| 12日（月）学位論文提出のための語学試験 | 看護専門学校授業開始 |
| 13日（火）理事会 | 10日（火）医学部入学願書受付開始 |
| 14日（水）第5学年臨床実習に係るオリエンテーション | （2月7日まで） |
| 19日（月）第1学年早期医療体験学習 | 11日（水）第2学年専門課程授業科目のオリエンテーション |
| 20日（火）看護専門学校授業終了 | 14日（土）学位論文受付締切 |
| 21日（水）教授会、大学院医学研究科委員会 | 18日（水）教授会、大学院医学研究科委員会 |
| 看護専門学校冬期休業 | 24日（火）看護専門学校第二看護学科入学試験 |
| （1月7日まで） | |
| 25日（日）医学部学生冬期休業（1月7日まで） | 25日（水）同上 |
| | 29日（日）看護専門学校第一看護学科入学試験 |
| 1月 4日（水）年賀交換会 | 31日（火）同上 |
| 5日（木）看護専門学校入学願書受付開始 | |

附 属 病 院

平成7年度臨床研修医募集要項

平成7年度本学附属病院の臨床研修医募集要項が下記のとおり決定いたしました。

募 集 要 項

1. 募集人員

全科で100名以内とする

2. 研修科目

第 1 内 科・第 2 内 科
 第 3 内 科・精 神 神 経 科
 一般・消化器外科・胸 部 外 科
 脳 神 経 外 科・整 形 外 科
 小 児 科・産 婦 人 科
 眼 科・耳 鼻 咽 喉 科

皮 膚 科・泌 尿 器 科
 放 射 線 科・麻 酔 科
 齒 科 口 腔 外 科・形 成 外 科
 中央検査部・病態検査学

3. 応募資格

原則として当年施行の医師国家試験合格見込の者および医師免許証を有する者

4. 出願期間

平成6年12月1日（木）から
 平成7年1月31日（火）まで

5. 提出書類

- (1) 臨床研修許可願
- (2) 履歴書（JIS日本工業規格使用、上半身の写真を貼付のこと）

- (3) 住民登録票
 - (4) 卒業（見込）証明書および推薦書
 - (5) 健康診断書
 - (6) 国家試験合格証書又は医師免許証（写）
6. 選考方法
各科個別におこなう
詳細は、各科より出願者に通知する
7. 臨床研修許可発表
郵送をもって通知する
- 8. 臨床研修開始予定 平成7年5月1日
なお、臨床研修実施にあたり医師国家試験発表後各科において打ち合わせを行い、平成7年4月25日（火）に全科合同のオリエンテーションを行う予定
 - 9. その他
各科研修カリキュラムは別に定める

平成6年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記の通りです。

（平成6年4月～平成6年9月）

	人		対前年度増減率%	
	入院患者数	外来患者数	入院患者数	外来患者数
H. 6. 4	(850.7) 25,522	(2463.8) 61,596	△ 2.43	△ 3.12
H. 6. 5	(795.8) 24,670	(2532.0) 58,235	△ 4.41	0.28
H. 6. 6	(881.0) 26,429	(2529.2) 63,229	△ 0.47	2.49
H. 6. 7	(914.1) 28,337	(2426.4) 63,087	3.27	△ 5.72
H. 6. 8	(861.9) 26,720	(2294.8) 61,959	1.65	△ 3.61
H. 6. 9	(832.2) 24,965	(2442.4) 58,617	△ 4.1	△ 7.43
合 計	(856.0) 156,643	(2444.8) 366,723	△ 1.03	△ 2.95

（ ）内は、1日平均患者数

*平成6年度上半期入院関係稼動日数183日（平成5年度も同）

外来関係稼動日数150日（平成5年度は149日）

平成6年度大阪医科大学 関連病院長会議の開催

平成6年度大阪医科大学関連病院長会議が本年10月25日（火）午後8時から大学管理棟臨時会議室に於いて、本学松本学長、美濃病院長、各教授と各関連病院長（62病院）出席のもと「大学と関連病院間の諸問題」について熱心な意見交換がなされた。



消 防 訓 練



器具を使って実地訓練

備えあれば……

真剣に消防訓練

本年度秋の附属病院の消防訓練は、夜間体制における職員を対象に10月26日（水）午後1時30分から約60名が参加し、夜間における火災等災害発生時における患者の生命の安全確保に備え、適切に通報、初期消火・避難誘導等を目的に34病棟の出火を想定して行われました。

当日は、大学正門付近へ避難した後、消火器の取扱方法の説明を受け、実際の消火器を使い、消火活動が行われました。



患者搬出の訓練

第64回大阪医科大学解剖慰霊祭

平成6年度の第64回解剖慰霊祭が、10月15日（土）午後2時より、高槻市民会館において、ご遺族はじめ生前委託者550名余りのの方々をお迎えし、来賓、本学役員、教職員及び学生の参列のもとに執り行われました。



訃 報

有原康次名誉教授ご逝去

整形外科学名誉教授有原康次先生には病気ご静養中のところ、去る8月10日（水）逝去されました。

享年88才でした。

先生は、昭和28年11月本学整形外科学教授として就任され、昭和49年3月定年退職までの間、病院長代行をお務めになるなど本学の発展・充実に寄与されました。ご退職後も理事、評議員の要職を歴任されました。

先生のご遺徳、ご功績を偲びご冥福をお祈りいたします。

第46回
西医体

弓道女子が優勝 総合5位へ躍進

第46回西日本医科学生総合体育大会は、近畿大学医学部を代表主管校として関西地区を中心に西日本の44大学、約15,000人が参加し、20種目の競技について盛大に行われました。

本学の主な成績は下記の通りです。

総合成績 第5位 得点285.5点

上位成績

- 優勝 弓道部（女子）
- 3位 野球部
- 4位 ヨット部・空手道部・ゴルフ部
- 5位 卓球部（女子）
- 7位 水泳部（男子）
- 8位 バレー部・ラグビー部・硬式テニス部（女子）

総合成績

- 第1位 浜松医科大学 得点338.5点
- 第2位 金沢大学 " 332.5点
- 第3位 京都大学 " 316.5点
- 第4位 島根医科大学 " 307.5点
- 第5位 大阪医科大学 " 285.5点

記録的な暑さと、水不足をもたらした夏もようやく終わりを告げようとし、私たち学生も学業に励む日常の生活へと戻ってきました。そんな日々の中、忙しい学業の合間にクラブ活動に汗を流す学生も多く、そんな学生にとっての一年の1つの目標である西医体（西日本医科学生総合体育大会）の成績がまとまりました。



左から三名が本学の選手

今年度の西医体は、さる7月22日より8月8日までの間、関西地区を中心として行われました。大阪医大の成績は、弓道部女子の優勝、野球部の3位入賞、また他の多くの部の健闘により、総合成績では昨年よりも上位である総合5位となりました。

近年、西医体におきましてはその大会規模の拡大による、宿泊施設や会場の確保の困難さ、各大学医学部に創設される福祉学科、医療技術学科などの学生の参加資格などの問題を数多く抱えております。「医学部医科学生の大会」と

なっております西医体ではありますが、現在の「チーム医療体制」のことなどを考えますと、その参加を簡単に否定することも、疑問の残るところです。

この様にその運営には種々の問題を抱える西医体ではありますが、医学生相互のスポーツを通じての親睦の場として西医体が益々発展することを願います。

’94年度西医体評議委員 林 哲也
—弓道部選手のコメント—

「例年になく厳しい暑さの中での大会でしたが、練習の成果が出て良かったと思っております。これもひとえに、佐野部長や菊川師範、そしてOBの諸先生のおかげであると思っております。誠にありがとうございました。」

「運動と健康」テーマに 「大学祭」開く

大学祭実行委員会 住 吉 一 浩

「うちの大学祭は、あまり盛り上がりへんな。」この季節に大阪医大生がよく口にする言葉だと思えます。

本来、大学祭は学生が企画して若い力を発揮する場であります。にもかかわらず、毎年行っている狭い場所ではその力を十分に表現するこ



佐竹雅昭を招いてトークゲーム



運動会の一場面

月日(曜日)	内 容
10/9(日)	各クラブ展示・医学展示、運動会 佐竹雅昭(トーク&ゲーム)、ライブ (ジャングル)、Boys コンサート、 愛の献血、模擬店 (於:進学課程) 医学講演、ESS劇 (於:専門課程)
10/10(月)	各クラブ展示・医学展示、軽音楽部演 奏会、お笑いコントショー、ギャル コンテスト、模擬店 (於:進学課程) 謡曲部発表会 (於:専門課程)
11/3(木)	ダンス・パーティー (於:難波ディッセ・ジェニー)

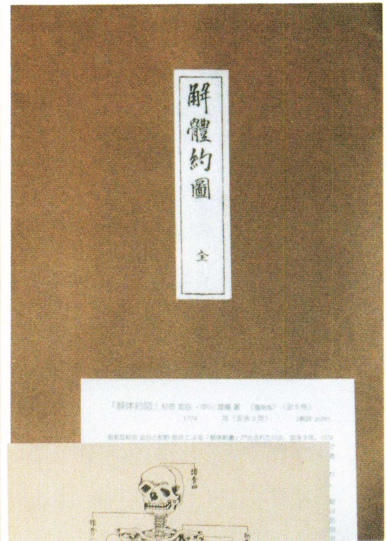
大学祭プログラム

とができません。そこで今年メイン会場を教養グラウンドに移そうと。また日時も場所も大学とは無関係なコンサートを辞め、その分、学生を中心とした場を多くしようと考案計画をたてました。

テーマは「Exercise & health (運動と健康)」日常ストレスのたまっている人に、広い所で思う存分楽しんでもらうことに主眼を置きました。地域住民の方々にもより多く参加してもらうため、出店の数も例年より増やしました。

なにしろ、新しいことを試みているため、問題点は多数予想されますが、それはスタッフ全員が協力し合い一つ一つ解決していき、さらには、本学祭が少しでも今後の学祭の発展のきっかけになれば光栄かと思えます。

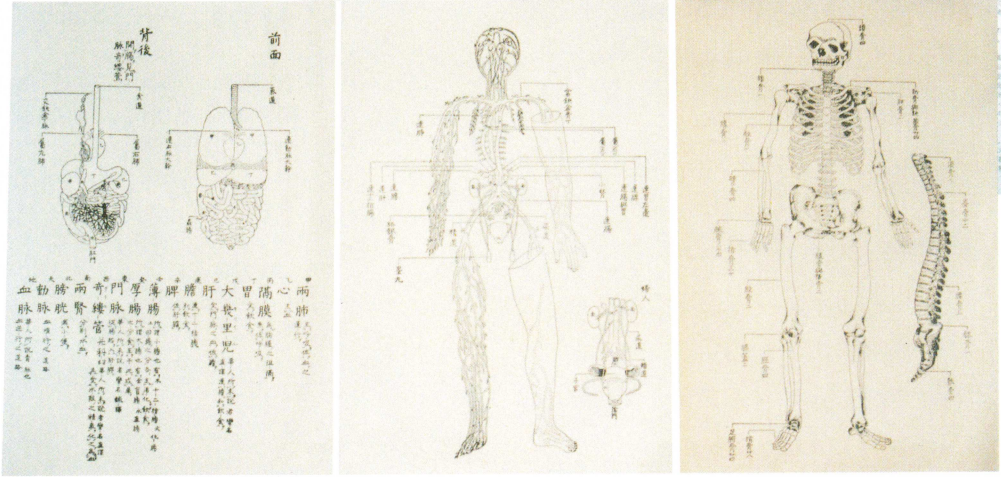
最後に、本学祭に協力して下さった方々に心から感謝すると同時に、多数の方々为本学祭に参加して頂くことを期待しております。



解體約圖
 傳常從事於紅毛解體書而錄其有年於茲也今
 名曰解體新書其夫紅毛人所說所圖凡百餘九
 腑筋脈至於皮毛爪牙也分而說其圖而圖焉由
 焉其精至華人所未說者共說焉其圖焉載在
 也然此舉也欲於臟腑筋脈之部位而圖其
 以便是新書者先知其大略也

凡例
 凡圖中名目既其確切唯記甲乙等之字為之符以令
 符印之字也宜相照或耳
 臟腑筋脈骨各標而圖者各標而連線之則其部位全

侍醫玄白杉田翼
 同 津安中川淳庵
 若狹 處士元華孫谷儀克



本学図書館展示コーナーには、数十点にのぼる貴重な和漢医学古書が開陳
 されている。写真はの一つ「解體約図」（復刻版）である。1773年（安永
 3年）徳川十代将軍家治の時代、杉田玄白と中川淳庵の著作だが今を溯るこ
 と240年。すでにこれほど人体構造に迫っているのに驚かされる。
 解體新書（全五巻：1774）のさががけとなった。

大阪医科大学学報 第22号
 発行年月日 平成6年11月2日
 発行 学校法人 大阪医科大学
 発行責任者 事務局長 辻倉 忠 男
 編集・発行 総務部庶務課